

所長の部屋

新任挨拶



4月から田子の浦港管理事務所に着任しました梅原です。当事務所には21年振りの勤務になります。

田子の浦港は、昭和41年4月の関税法による開港から本年で50年を迎えます。この節目の年に着任することになったのは、土木の技術屋として長く港湾行政に関わってきた縁かと思っていますが、その一方で、時代の変化に応じた港湾の整備や運営に取り組む大切さを感じているところで

田子の浦港を取巻く環境は、我が国の産業構造の変化に加え東日本大震災の影響から、大きく様変わりしています。富士山の豊富な水源を背景に発展した岳南地域の製紙・パルプや化学繊維産業は、エネルギー産業や新たな素材産業、医療分野への展開が進み、本港の主力貨物の一つである輸入木材チップの取扱いは無くなり、石炭へと代わろうとしています。

その中で、堀込港湾である田子の浦港は、台風や爆弾低気圧の波浪による港口の土砂埋塞の脅威にさらされていますが、石炭船等の大型船がスケジュール通り入港出来るよう、関係者の皆様と連携を図り、航路の保全する体制を職員一同で整えてまいります。

また、「工業港」として地域の産業を支えてきた田子の浦港ですが、港口西側に整備している「ふじのくに田子の浦みなと公園」は富士山と駿河湾を一望できる緑地として、地元住民のみならず県内外の皆様にご利用して頂いております。さらに、航路を挟んだ東側の鈴川地区において「躍動とスポーツ」をテーマとする緑地についても、みなと公園と同様に地域との協働により整備を進めており、富士市が目指す“田子の浦港振興ビジョン”の「にぎわいづくり」を支援したく考えています。

この様な時代の変化に適切に対応する、田子の浦港の「安全で使いやすく親しみのある」みなとづくりを目指し、当事務所全職員で推進してまいりたく考えています。つきましては、皆様からのご支援やご協力をいただきますよう宜しくお願いします。

平成28年4月

静岡県田子の浦港管理事務所

所長 うめばら 梅原 ただし 正